



萬鉄五郎記念美術館には多くの観光客が訪れています

Q 萬鉄五郎記念美術館の開館から24年経過した。この間、同美術館では積極的に展示会や学芸



小原 茂明 議員 (花巻クラブ)

研究が行われ、全国的にも評価が高いと認識している。今後においても新たな文化づくりや人づくりに大きく貢献できる美術館として、また、地域文化の発信基地として活動展開と美術館機能の充実が期待されると考

Q 万鉄五郎記念美術館の改修整備 開館30周年目の年をめどに計画

記念美術館は、昭和59年の開館から24年を経過しているため、資料の増加とともに狭隘となつてきている。計画内容については、現在のところ既存建物の改修を考えている。時期については、開館30周年に当たる年をめどに計画を進めていきたいと思つている。また、資料の増加に伴う対策としては、花巻市博物館との連携により、適切な資料の保管・保存が図られるよう措置していく。

Q 国は近年の深刻な経済状況に対応すべく、緊急経済対策として、中小企業者に対する緊急保証



藤井 幸介 議員 (無会派)

制度の改正を実施した。これを受け本市では、独自の制度を創設する考えはあるか伺う。 A(市長) 市内中小企業者の資金調達の実態把握を行った。その結果、「緊急経営安定資金」を創設し、12月1日から運用を開始したところである。

Q 本市の地デジ対策

Q 地域で唯一の入院施設である大迫地域診療センターを無床化し、入院できないようにする

※「キャッシュフロー」= 経営における資金の流れを意味し、企業活動の結果、実際に得られた収入から支出を差し引いて手元に残る資金の流れのこと。

アナログ放送は平成23年7月で放送終了となります

中小企業への独自の制度創設を 12月に緊急経営安定資金を創設

農業の再生産のため所得確保を 安定した農業経営を目指し連携



中村 初彦 議員 (明和会)

Q 10月末のJAいわて花巻の青果物販売額は前年対比85%で2億4,700万円の減少となつ

た。生産資材が高騰する状況下、農業の再生産のための所得確保が厳しい状況である。県の動向、農業委員会の建議や、農家・農業団体からの要望に対する市の見解や方針を示せ。 A(農林水産部長) 憂慮

る。市としては、今後も再生産可能な農業の構築、後継者不足や耕作放棄地の解消のため国・県に提言するとともに、補助事業や市単独事業の活用により、安定的な農業経営ができるよう関係機関と連携し、花巻に適した農業の振興に努める。

Q 地域の中心部の商店街周辺の魅力を高めるため住民の自由な意見を期待して懇談会を実施しているが、市の現状認識と成果の見直しを示せ。 A(市長) 4地域とも「商業力」が低下し、これまでの手法では難しいと認識している。懇談会を開催し、その意見を新年度予算に取り入れたい。中期的な事業として、最終的には市全体のまちづくりとして取り組みたい。



Q バイオマス構想は 平成19年2月に市が宣言したバイオマスタウン構想をどう進めるか。進捗よく状況、今後の方針について伺う。 A(農林水産部長) バイオマスエネルギーとしてチップボイラーを大迫総合支所のほか3事業所で使用している。ペレットストーブ普及に当たっては関係機関と連携していきたい。また、新規に導入する場合は補助制度などで支援を行っていく。



大迫地域診療センターの無床化について大迫交流活性化センターで開かれた地域説明会では、多くの住民からベッド存続を求める意見が出されました(1/16)



若柳 良明 議員 (平和環境社民クラブ)

Q 大迫地域で唯一の入院施設である大迫地域診療センターを無床化し、入院できないようにする

という方針が示された。このことについて、市としてどう受け止め、今後どのように対応していくのか伺う。また、無床化対象市町村との連携について伺う。 A(市長) 事前の協議もなく、突然方針が示されたもので納得できない。

Q 無床化の見直しを求めている

Q 無床化の見直しを求めている